

8-3-3 土木・建築連携まちづくり専門委員会

1. 主な活動記録 (令和7年度廃止)

(1) 活動目標

「土木・建築連携まちづくり専門委員会」では、以下の2つの方針で活動をおこなってきた。

a) 土木分野と建築分野の協働について、従来の景観やデザインの領域だけでなく、企画・調査・設計・監理全般を対象に多様な社会環境に応じた協働の在り方を探求する。

b) 過年度より活動している「美しい国づくり」の実現に対して、我々建設コンサルタントが取り組んできた活動・成果について記録に残し、情報発信を行う。

(2) 委員会の開催等

・R6.4:企画部会(4/5開催)にて、当該専門委員会に対する活動状況の報告依頼および存続可否を検討すべきとの意見が上がった。

・R6.5:企画部会(5/7開催)にて、活動状況及び今後の検討方針を報告し、検討方針に対する反対意見はなかったが、一旦解散すべきとの意見が委員よりあった。

・R6.6:企画委員会の審議を経て、企画部会へ以下の報告を行った。

【報告内容】

- ・専門委員会の存続・廃止を継続検討する。
- ・今年度の議論・検討は、専門委員会の次年度以降の継続を前提としたものではなく廃止する事も視野に入れて進める。
- ・検討にあたっては、企画委員会からの意見(上述)も踏まえて検討する。
- ・議論、検討する期間は令和6年12月を目途、その後、結論を企画委員会、企画部会に提示して活動継続、廃止の判断を仰いだ。

2. 実績報告

企画委員会による審議の結果、当該専門委員会は廃止する方針が示された。

(1) 廃止理由

a) 実質的な活動成果

現企画委員会体制(令和5年度以降)になってからは、実質的な専門委員会としての活動成

果は報告されていない。

b) 当該専門委員会の設置の必要性の確認

当該専門委員会の設置目的(ミッション)を以下示す。実質的な委員会活動がない中でも大きな支障は生じなかった。

【当該専門委員会の設置目的(ミッション)】

・土木分野と建築分野の協働について、企画・調査・設計・監理全般を対象に多様な社会環境に応じた協働の在り方を探求。

・「美しい国づくり」の実現に対して、建設コンサルタントが取り組んできた活動・成果の記録と情報発信。

(2) 当専門委員会の活動が停滞した理由

令和5年3月(令和4年度)以降は、以下の理由(要因?)により、活動は停滞した。

a) 建コン協側の要因

・委員会の委員の内、委員長ほか1名を除き、日頃実務で土木と建築の境界領域を経験していない。委員は活動の意義は理解しているが、本質的な議論に参加していく事が難しい。

・結果的に、委員長のみがJIA側の委員会に参加している状況であり建コン協組織としての活動に展開できていない。

b) JIAとの協働活動上の要因

・JIAは今年度から、若手(30代後半から40代)を主軸に活動を展開。

・JIAのメンバーは会社とは独立した有志で構成されており、意欲的であり、土木設計との協働にも興味を持っている。

・JIAとしては、建コン協(土木)との活動を希望しているが、建コン協側の人材不足。

c) その他

・JIAからは、両会長の会談を要望されている。活動の停滞は建コン協側の課題による。

3. 次年度の活動について

「土木・建築連携まちづくり専門委員会」は廃止する事になった。JIAを含めた建築分野との共同検討は、企画委員会内で継続して実施する予定。

(土木・建築連携まちづくり専門委員会委員長

水谷 智充)